

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		防犯灯維持管理事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	02 総務費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 総務管理費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		06 財産管理費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		12,880	12,735	13,319	13,141	12,188
	財源 内訳	国県支出金	2,620	2,620	2,609	2,609	2,602
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	10,260	10,115	10,710	10,532	9,586
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町民のため。						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	町民が夜間安心して、通れる生活道路照明の確保を図る。故障等の対応を速やかに実施し、夜間犯罪の発生防止を図る。						
⑤	事業概要						
	防犯灯の球切れ等の修繕 既存の防犯灯をLED防犯灯に交換工事						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	省エネタイプのLED防犯灯を積極的に導入してきたことにより、町内の防犯灯はほぼLED化されている。 今後は、適正な維持管理を図っていく。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	保守修繕件数 単位： 件	実績値	58	40	40	
			目標値	0	0	0	
	定義	防犯対策上、また、安心して暮らせる生活環境づくりのため必要不可欠である。					
	B	防犯灯電気料 単位： 千円	実績値	6,584	6,943	7,260	
			目標値	0	0	0	
	定義	電気料のH28～30年度の3年間平均は6,929千円である。					
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	防犯灯新規設置数 単位： 基	実績値	16	18	4	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 13	防犯対策上、また、安心して暮らせる生活環境づくりのため必要不可欠である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	夜間の防犯対策には有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 13	防犯灯の新設を抑制していく必要がある。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	新設要望箇所への設置はほぼ完了している。今後の新たな要望については、財政状況を勘案して行う必要がある。

⑪	課長総括評価 合計点 45	今後も適正な維持管理や、経費の削減に努めることとする。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		交通安全推進事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	02 総務費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
項		01 総務管理費	小分類		01 防災防犯対策の充実		
目	08 交通安全対策費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		3,363	3,140	2,070	1,812	2,567
	財源 内訳	国県支出金	144	144	144	144	144
		その他特定財源	1,000	1,000	0	0	0
		一般財源	2,219	1,996	1,926	1,668	2,423
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民及び町全域。							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
交通事故から町民の命や財産を守り、安全で安心して暮らせる地域社会にする。特に、高齢者や子どもの交通事故を防止する。							
⑤	事業概要						
町民が交通事故に遭うことのないよう、交通指導隊や交通安全母の会と連携して、各種啓発活動、街頭指導、イベント時の交通整理等を実施する。さらに、交通安全教室を開催するなど、交通安全教育へ協力し、交通ルールの遵守を徹底させる。							
年2回（春、秋）交通安全運動実施							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
色麻町内の交通死亡事故ゼロは、平成31年1月16日をもって3年間を達成した。平成30年中に町内で発生した交通事故件数は142件で、前年の144件に比べ減少しているものの、1件でも発生を防ぐことができるよう、今後も交通安全運動期間中だけでなく、年間を通して啓発活動を実施し、町民に交通安全思想の普及・浸透を図る必要がある。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
色麻町交通安全条例 色麻町交通安全指導員条例及び規則							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	交通安全教室開催 件数	単位：回	実績値	11	12	12	
			目標値	15	15	15	
定義	幼稚園・小学校・行政区・職場（町職員対象）の年間の交通安全教室開催を15回として目標値を設定。						
B	交通安全指導員人 数	単位：人	実績値	9	9	9	
			目標値	13	13	13	
定義	条例定数の13人を目標値として設定。（各年度末）						
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	町内で発生した交 通事故の件数	単位：件	実績値	108	144	142	
			目標値	0	0	0	
定義	無事故を目標値として設定。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 13	町民や町全域の交通安全を守るため妥当である。最近の交通情勢等をふまえ、適切な方法で広報活動ができるよう、他市町村の取り組みを参考にしながら検討していく必要がある。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 13	町内の交通事故防止のため、交通指導隊、交通安全母の会、交通安全協会による街頭指導は有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 13	年間を通して、交通指導隊、交通安全母の会、交通安全協会等の交通安全関係団体が、連携をしながら効率的に活動を実施している。また、交通事故の減少は、多項目への経済効果がある。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	平成31年1月16日に交通死亡事故ゼロ3年間を達成した。しかし、事故件数0の目標値に近づけるため、今後も交通安全関係機関・団体と連携し、継続して広報活動を行う必要がある。

⑪	課長総括評価 合計点 43	関係団体と連携し、引き続き交通事故防止に努め、死亡事故ゼロを継続していく。また、交通安全指導員の入隊を積極的に促進していく。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		防犯対策事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	02 総務費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 総務管理費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		09 諸費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		548	521	562	535	944
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	548	521	562	535	944
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町民及び町全域。						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	犯罪の起こりにくい環境を整備することで、町民が安全で安心できる地域社会を実現する。また、町民自ら地域安全活動へ参加し、地域ぐるみで防犯意識の向上をはかる。						
⑤	事業概要						
	1. 防犯意識向上のための啓発、生活安全情報の提供。 2. 地域防犯活動の推進。 3. 町防犯実働隊による防犯診断及び夜間防犯巡回広報の実施。						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	町内の刑法犯認知件数は前年に比べ減少したものの、平成30年は窃盗が多く発生した。土地柄で、施錠をする習慣があまりないというお宅もあるため、防犯実働隊では夜間巡回広報を継続して実施し、町では広報紙や有線放送等を活用して注意を呼びかける必要がある。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	色麻町生活安全条例 色麻町防犯実働隊条例及び規則						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	防犯実働隊パトロール回数 単位：回	実績値	16	11	13	
			目標値	17	17	17	
	定義	防犯実働隊の実施したパトロールの年間回数。					
B	防犯実働隊員数 単位：人	実績値	6	5	5		
		目標値	10	10	10		
定義	条例定数の10人を目標値として設定。						
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	町内の刑法犯認知件数 単位：件	実績値	15	36	30	
			目標値	0	0	0	
	定義	犯罪の発生がないことを目標値として設定。					
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 13	町民の生活安全や町全域の犯罪防止に必要であるため妥当である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 13	防犯実働隊による夜間巡回広報は犯罪防止に、防犯診断等の広報啓発活動は、窃盗や詐欺等の被害防止に有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 12	隊員が定数10名に対して9名であるため、5名であった前年に比べ、町内巡回広報など無理なくより多くの活動が実施できるようにする。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	H29年とH30年は例年よりも刑法犯認知件数が多くなった。また、宮城県内でも架空請求の郵便物が郵送される事案がますます増加しているため、町及び防犯実働隊による広報活動を徹底して行う必要がある。

⑪	課長総括評価 年間を通して計画的に周知広報を行うとともに、防犯実働隊員の確保のために、広報紙やチラシ等を活用して、積極的に入隊を促進していく。
合計点 42	
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		消防団活動事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 消防費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		01 非常備消防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		19,386	18,987	19,793	18,994	19,304
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	19,386	18,987	19,793	18,994	19,304
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか） 町民の生命・財産及び消防団員						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか） 消防団活動による災害のない安全で安心な町を築くため。火災・災害を起こさない予防活動と災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。						
⑤	事業概要 1. 町民への防火思想の高揚を図る活動①町内全世帯を対象とした防火診断と町内巡回広報：春・秋の年2回 ②消防団各班による町内巡回広報：各班月1～3回 ③地区単位の初期消火訓練：随時 ④地区単位の防火講習会：随時 ⑤住宅用火災警報器の啓蒙普及活動 2. 消防団員の体制強化と技術向上・知識習得 ①消防団消防演習：年1回						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について 社会情勢の厳しい中、サラリーマン団員が多くなってきている。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等） 消防基本法6法・色麻町消防団条例						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	消防団員数 単位：人	実績値	209	207	206	
			目標値	210	210	210	
	定義	条例定数の210人を目標値として設定。					
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	火災発生時出動班数 単位：班	実績値	18	15	17	
			目標値	0	0	0	
	定義	消防団9班の出動を目標。					
B	火災発生件数 単位：件	実績値	2	4	4		
		目標値	0	0	0		
定義	無火災を目標値として設定。						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	法律・条例で定められている事業であり、社会情勢や災害の多様化に欠かせない状況である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	町民が安全に安心して暮らせる環境をつくるため、また、町民の生命・財産を守るためには不可欠である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	消防署等の関係機関と連携をし、地道な活動が災害予防につながっている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	団員による防火思想の普及啓蒙活動を行ったが、H29年は火災件数は4件で、建物火災1件、車両火災1件、その他火災2件であった。 現在、サラリーマン団員が多くなり、平日の災害発生時に出動できる団員が減少しているが、現体制を維持し、安心できる町を築いていく必要がある。

⑪	課長総括評価 町民の生命財産を守るため、今後も継続的に消防団活動を展開していくこととする。
合計点 50	
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		消防施設整備事業					
	担当課・係名		総務課 管財消防係					
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ		
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保		
		項	01 消防費		小分類	01 防災防犯対策の充実		
目		02 消防施設費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算	
	総事業費（千円）		909	909	9,450	9,441	2,300	
	財源 内訳	国県支出金	0	0	7,000	7,000	0	
		その他特定財源	0	0	0	0	0	
		一般財源	909	909	2,450	2,441	2,300	
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。								
③	対象（誰、何を対象にするのか）							
	町民の生命・財産及び消防団員							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）							
	消防施設の整備を適切に実施することにより、消防団活動が円滑に推進され、結果的に町民の生命・財産を守るため。災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。							
⑤	事業概要							
	H30 消火栓交換工事：2基（道命地内） 小型動力ポンプ付積載車：1台（袋班） H29 消火栓交換工事：1基（上郷地内） H28 消火栓交換工事：1基（大原地内） 消火栓撤去工事：1基（道命地内）							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について							
	消防施設の老朽化が進んでいくので、計画をたて施設の改修を進めていく							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）							
	消防基本6法・色麻町消防団条例							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）							
	指標名			H28	H29	H30		
	A	消火栓設置数 単位：基	実績値	127	126	126		
			目標値	0	0	0		
	定義							
	B	防火水槽設置数 単位：基	実績値	32	32	32		
			目標値	0	0	0		
	定義							
	⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
		指標名			H28	H29	H30	
A		消火栓交換数 単位：箇所	実績値	1	1	1		
			目標値	0	0	0		
定義 年間1基づつ50ミリ消火栓を75ミリ消火栓に交換することを目標とする。								
B		単位：	実績値	0	0	0		
			目標値	0	0	0		
定義								

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	町で施設整備を実施しなければならず、補助金等を活用しながら整備を進め、有事の際は町民の生命・財産を守れる状況にある。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	様々な災害に対応するため、消防団の施設整備を推進し、効率的に活用することにより、最終的な目標である安心で安全な町を築くために有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	様々な災害に対応するため、消防団の施設整備を推進し、効率的に活用することにより、最終的な目標である安心で安全な町を築くために有効である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	消火栓は毎年1～3基程度更新や新設を行っているが、既設水道管の口径の関係で設置困難な場所がある。今後も消火栓の更新や新設を実施し、消防水利に確保に努めていく。

⑪	課長総括評価 合計点 49 今後の方向性 <input type="text" value="現状のまま継続"/>	消防水利の確保や積載車・ポンプ等の更新については、計画を立て進めていくこととする。
---	---	---

⑫	二次評価 今後の方向性 <input type="text"/>	
---	---	--

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		消防施設維持管理事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 消防費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		02 消防施設費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		2,544	2,175	3,333	2,864	3,205
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	2,544	2,175	3,333	2,864	3,205
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町民の生命・財産及び消防団員						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	消防施設の維持管理を適切に実施することにより、消防団活動が円滑に推進され、結果的に町民の生命・財産を守るため。災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。						
⑤	事業概要						
	1. 消防団関係施設の維持管理 ①消防ポンプ付積載車：18台 ②消防ポンプ付積載車格納庫：17棟 2. 消防水利施設維持管理 ①消火栓：126基 ②防火水槽：32基 3. 消防通信システム維持管理 4. その他（消防団員装備品等）						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	消防基本6法・色麻町消防団条例						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	小型動力ポンプ付 積載車保有台数	単位：台	実績値	18	18	18	
			目標値	18	18	18	
定義 消防団の班数の18を設定。							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	災害時に消防施設を円滑に活用するためには、普段からの維持管理が必要不可欠である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	町民が安全に安心して暮らせる環境をつくるため、また、町民の生命・財産を守るためには不可欠である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	消防団の装備品については、各班に管理を任せているが、細やかな管理により経費の節減に努める必要がある。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	指標で明確な数字として表せないが、消防団員が災害活動時に円滑対応しているため、普段の維持管理が行き届いていると考えられる。

⑪	課長総括評価 合計点 49	今後も消防施設の維持管理を行い、経費の節減に努めることとする。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		大崎地域広域行政事務組合 負担金（消防費）				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 消防費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		02 消防施設費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		109,258	109,258	185,776	185,776	93,273
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	13,200	13,200	67,600	67,600	0
		一般財源	96,058	96,058	118,176	118,176	93,273
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民の生命・財産							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
消防組織法に基づき、消防本部及び消防署等の設置が義務づけられていることから、大崎管内構成市町により、大崎地域広域行政事務組合を設置、運営しており、これに対する負担金である。火災・災害を起こさない予防活動と災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。							
⑤	事業概要						
大崎地域広域行政事務組合（消防費）への負担金							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
消防基本6法・大崎地域広域行政事務組合条例							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	法律・条例で定められている事業であり、社会情勢や災害の多様化に欠かせない状況である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	町民が安全に安心して暮らせる環境をつくるため、また、町民の生命・財産を守るためには不可欠である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	消防署等の関係機関と連携をし、地道な活動が災害予防につながっている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	毎年、火災件数0件を目標として活動している。

⑪	課長総括評価 合計点 45	今後も消防署と連携し、災害予防に努めていく。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		水防団活動事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
項		01 消防費	小分類		01 防災防犯対策の充実		
目	03 水防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		418	79	418	262	375
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	418	79	418	262	375
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民の生命・財産及び消防団員							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
水防団（消防団）活動による水災害のない安全で安心な町を築くため。水災害が起きない予防運動と災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。							
⑤	事業概要						
1. 町民への水防思想の高揚を図る活動 ①町民への広報活動：随時 ②消防団各班による町内巡回広報：河川増水時							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
近年、地球温暖化等の影響によりゲリラ豪雨が多発しており、今後、水害への対策が必要である。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
水防法・色麻町消防団条例							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	水防団員数 単位：人	実績値	209	207	206		
		目標値	210	210	210		
定義	条例定数の210人を目標値として設定。						
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	法律・条例で定められている事業であり、社会情勢や災害の多様化に欠かせない状況である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 14	町民が安全に安心して暮らせる環境をつくるため、また、町民の生命・財産を守るためには不可欠である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	消防署等の関係機関と連携をし、地道な活動が災害予防につながっている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	指標で明確な数字として表せないが、町民や消防団員の水防活動に対する意識の高揚を図りながら、今後も水防活動の充実を図っていく。

⑪	課長総括評価 合計点 48	近年、大雨等による河川の氾濫や土砂災害が全国的に増加している。今後も水防団活動を継続的に実施し、水害予防に努めていくこととする。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		災害対策事業				
	担当課・係名		総務課 管財消防係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	09 消防費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
項		01 消防費	小分類		01 防災防犯対策の充実		
目	04 災害対策費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		6,311	6,059	14,838	14,539	12,830
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	3,200	3,200	11,278	11,278	8,900
一般財源		3,111	2,859	3,560	3,261	3,930	
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民の生命・財産							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
地震等による災害が発生しても被害のない、負傷者でない安全で安心な町を築くため。地震等の災害発生に備えた防災対策と災害が発生してしまった場合、被害を最小限にとどめるため。							
⑤	事業概要						
<p>1. 町民への防災対策の高揚を図る活動</p> <p>①町内各地区を対象とした防災講習会：随時</p> <p>2. 消防団員の体制強化と技術向上・知識習得 ①地区単位防災訓練への参加による技術の習得：随時</p> <p>②町防災行政無線による情報伝達の確保</p> <p>3. 自主防災組織設立状況 ①H24. 3. 31現在で25地区で自主防災組織を設立</p> <p>②H27～H31の5年間東日本大震災復興基金を財源とし自主防災組織への交付金交付事業を実施</p> <p>4. 色麻町地域防災計画を広島土砂災害、関東・東北豪雨等の教訓を踏まえ、H31年3月に改訂した。</p>							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
近年、宮城県内ではH15の北部連続地震、H20の岩手宮城内陸地震そしてH23年の東日本大震災と大規模な災害が発生しており、本町でも今後起こりえる様々な災害に宮城県沖地震に対応するためにも、防災対策は非常に重要である。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
消防基本6法・災害対策基本法・色麻町消防団条例							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	自主防災組織数	単位：地区	実績値	24	24	24	
			目標値	24	24	24	
定義	自主防災組織を全行政区（王城寺・花川沢口は1組織とする）に設置を目標としているため目標値は24行政区とする。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	防災訓練・講習会 開催地区数	単位：地区	実績値	24	24	24	
			目標値	24	24	24	
定義	全地区（王城寺・花川沢口は1組織とする）において防災訓練または防災講習会の実施を目標とするため、目標値は24とする。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	法律・条例で定められている事業であり、宮城県沖地震の発生が予測される中、社会情勢や町民のニーズに欠かせない状況である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	町民が安全に安心して暮らせる環境をつくるため、また、町民の生命・財産を守るためには不可欠である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	消防署や消防団、婦防等関係団体との連携は密で、ソフト面、ハード面どちらも整備されつつある状況である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	全行政区において災害時における共助のための自主防災組織が設立されており、平成27年度から令和元年度まで自主防災組織へ交付金を交付し、防災用資機材等を購入し、各行政区において防災対策を実施していただいている状況にあるので、今後も自主防災組織と連携して災害対策を実施していく必要がある。

⑪	課長総括評価 合計点 49	今後も災害に備え、各種防災対策事業を展開していくこととする。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

平成31年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		有線放送施設施設管理事業				
	担当課・係名		企画情報課 企画調整係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	02 総務費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 総務管理費		小分類	01 防災・防犯対策の充実	
目		14 情報通信施設管理費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		0	0	23,835	23,698	15,372
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	0	0	23,835	23,698	15,372
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
住民全般							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
安定した行政情報の配信と災害情報の配信。							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> 有線放送施設の保守管理、修繕等 有線用スピーカーの設置（有線放送電話が無い世帯・約800世帯） 放送業務等 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
情報通信施設で、全世界帯に一齐放送ができないため 平成30年度に利用調査を実施。220世帯から利用希望があったため、順次設置している							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
<input type="checkbox"/> 色麻町有線放送施設の設置及び管理に関する条例 <input type="checkbox"/> 色麻町有線放送施設管理運営規則							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	設置世帯数	単位：台	実績値	1,200	1,200	1,200	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 13	行政情報や災害関連情報等の伝達は行政が担うべき役割の中でも最たるもののひとつであり、伝達手法を巡っての経緯はあったものの、スピーカー設置を希望する声にはきめ細やかに対応していく。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	災害放送以外にも行政放送（住民サービス・議会放送等）にも利活用できる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	3
評価の説明 点数 9	受益者負担は求めている。 将来的にランニングコストや老朽化に伴うコストが発生するため、問題が顕在化する以前の段階で費用負担についての考え方を整理する必要がある。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	3
評価の説明 点数 3	既存の有線放送設備を引き続き使用して情報配信を行うこととなった。 スピーカーの設置希望に対しては、設置計画をもとに日々対応している。

⑪	課長総括評価 合計点 37	スピーカーの設置を希望する世帯に対し、迅速に設置作業を進める。 設備の老朽化が懸念される。 現状、町民への行政・災害情報等の情報提供手段として、当面の間有線放送施設を維持する必要があり、管理装置の更新を検討する必要がある。
	今後の方向性	改善の上継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		消費生活対策費				
	担当課・係名		町民生活課 住民年金係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	05 安心して暮らすチカラ	
		款	02 総務費		中分類	06 安全な暮らしの確保	
		項	01 総務管理費		小分類	01 防災防犯対策の充実	
目		13 消費者行政費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		3,888	3,724	3,787	3,625	3,991
	財源 内訳	国県支出金	3,358	3,391	3,401	3,401	3,513
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	530	333	386	224	478
※H27・H28予算は最終予算額。H29は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民全般							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
安心して安全で豊かな消費生活を営む事が出来る。							
⑤	事業概要						
平成23年度より消費生活相談員を配置し、消費生活に関わるトラブルに遭った時の対処法や助言、あっせん等を行う。町民には、有線放送での呼び掛け、出前講座、行政区へ回覧による呼び掛け等の啓発や相談員のレベルアップのため国民生活センターでの研修に参加するなどの支援をした。							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
消費者を取り巻く社会経済情勢が大きく変化している中で、消費生活に関わるトラブルや悪質な商法が後をたたない。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
地方消費者行政活性化基金管理運営要領							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	出前講座実施回数 単位：回	実績値	3	7	11		
		目標値	6	6	10		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	消費者を取り巻く社会経済情勢が大きく変化している中で、安心して安全で豊かな消費生活が出来るよう実施していく。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	H23より消費生活相談員を配置。町民への未然防止と啓発の強化を行った。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	消費者行政活性化交付金を活用し、消費生活相談窓口の充実を図った。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	相談窓口の整備や、出前講座、有線放送等での町民への啓発等も行っている。また、相談員レベルアップ等研修への参加のための支援など相談窓口の充実を図る事が出来た。

⑪	課長総括評価 合計点 50	新たな特殊詐欺や詐欺手法の巧妙化、高齢化の進展等により、消費者トラブルへの対策の需要が高まっている。今後も未然防止に向け対応する。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		